

平成 11 年 4 月 12 日

“リサイクルで国際協力”

ムコーバ (MCCOBA) の活動を庁舎ロビーに展示紹介

ー 再生自転車・リサイクルノートに輝く笑顔 ー

12 日 (月) から、豊島区役所本庁舎 (東池袋 1-18-1) 1 階ロビーで、**再生自転車**や**リサイクルノート**などを開発途上国へ譲与している**ムコーバ** (MCCOBA 再生自転車海外譲与自治体連絡会) の活動を紹介するパネル展示が開催されている。期間は、16 日 (金) まで。

展示されているのは、再生自転車やリサイクルノートなどをアジア、アフリカ、中南米などの開発途上国へ譲与しているムコーバの活動を紹介した説明パネルや写真パネル。自転車で活躍するボランティアたちの写真や、嬉しそうにリサイクルノートを手にした子供たちの写真などが展示されている。

ムコーバとは、自治体とジョイセフ (JOICFP 家族計画国際協力財団) を構成員とし、自治体の国際協力の一環として開発途上国へ再生自転車を贈与している団体。昭和 63 年に豊島区がマレーシア、ザンビア等に 375 台の再生自転車を贈ったことをきっかけに始まり、その翌年に 6 自治体とジョイセフをもってムコーバが発足した。その後新たな自治体が加盟し、現在 15 自治体 (文京区・大田区・世田谷区・豊島区・練馬区・荒川区・板橋区・多摩市・武蔵野市・川口市・大宮市・所沢市・上尾市・静岡市・広島市) とジョイセフが構成員となっている。

豊島区は当初より、ムコーバの事務局となっており、昭和 63 年から平成 10 年までに、合計 5,590 台の再生自転車を海外に譲与している。これらの自転車は、区内に放置されていたものを、区が条例にもとづき回収し修理したものだ。

*

*

アジア、アフリカ、中南米などの開発途上諸国の中には、自転車が非常に高価で品薄であるために、その必要性が高いにもかかわらず一般の人が手に入れることが大変難しい国がある。そこでムコーバでは、ジョイセフと協力して、家族計画、寄生虫予防、栄養改善などの保健事業をはじめとする開発途上国の地域開発に役立たせるべくリサイクル自転車を譲与している。

そして、海外に譲与された再生自転車は、譲与先国の家族計画や栄養改善等の母子保健、地域環境改善等に活躍するフィールドワーカーの貴重な足となっており、現地では、「命の足」「動く薬局」「人力救急車」とも呼ばれて、おおいに活用されている。自転車の贈与を受けた国からは「ボランティアによる家族計画の普及活動を、今までは歩いて村々を巡回して行っていたが、再生自転車のおかげで家庭訪問の時間が短くなった（ネパールの村の婦人会メンバー）」などの意見が寄せられている。

リサイクルノートの譲与は、区内に 180 社以上ある印刷業者の協力を得、印刷に失敗した紙や残った紙を回収し、ノートにして、再生自転車とともに開発途上国へ贈っているもので、タンザニアなどに、毎年 3 万冊がプレゼントされている。

また、区では、NGO「ラブ・グリーン・ジャパン」と協力して、使用済みプリペイドカードの回収を行い、その収益金は、ネパールに緑を増やすための苗木購入代金に当てられているが、こうした活動を紹介するパネルも展示されている。

このようなムコーバの活動は、国際的にも強い関心と高い評価を得ており、例えば、海外の評価では、182カ国が加盟する公益民間団体である国際家族計画連盟の活動報告書にも「世界に類のない活動」としてとりあげられている。

詳細 交通対策課 自転車対策係